

第7回 原子力災害対策本部会議 議事概要

1. 日時

平成23年3月14日(月) 9:53～(10:16までには終了)

※開始時間は、原子力災害対策本部の議事に入った時間。

2. 場所

官邸4階大会議室

3. 構成員等

本部長：菅直人内閣総理大臣

副本部長：海江田万里経済産業大臣

本部長：片山善博総務大臣・内閣府特命担当大臣(地域主権推進)・地域活性化担当、松本剛明外務大臣<代理：伴野豊外務副大臣>、野田佳彦財務大臣、高木義明文部科学大臣、細川律夫厚生労働大臣、鹿野道彦農林水産大臣、大島章宏国土交通大臣・海洋政策担当、松本龍環境大臣・内閣府特命担当大臣(防災)、北澤俊美防衛大臣<代理：小川勝也防衛副大臣>、枝野幸男内閣官房長官・内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策)、中野寛成国家公安委員会委員長・公務員制度改革担当・拉致問題担当、伊藤哲朗内閣危機管理監

その他：江田五月法務大臣、自見庄三郎郵政改革担当・内閣府特命担当大臣(金融)、蓮舫内閣府特命担当大臣(行政刷新、消費者及び食品安全)・節電啓発等担当、玄葉光一郎国家戦略担当・内閣府特命担当大臣(「新しい公共」、科学技術政策)・宇宙開発担当、与謝野馨閣府特命担当大臣(経済財政政策、少子化対策、男女共同参画)・社会保障・税一体改革担当 等

※緊急災害対策本部(全国務大臣で構成)と連続開催のため、本部長以外の閣僚も原子力災害対策本部に出席。

※本部長ではないが、本部会合には原子力安全委員会委員長が出席する。

4. 配布資料

- ・福島第1原子力発電所避難等について(原子力災害対策本部)
- ・各発電所からの距離
- ・地震被害情報(第22報)(経済産業省)
- ・現地モニタリング情報(2011/3/14 7:39)

※上記資料については、緊急災害対策本部と同時開催のため、一部資料が重複している可能性あり。

5. 議事概要

○枝野幸男内閣官房長官から第9回緊急災害対策本部及び第7回原子力災害対策本部の開会を宣言。

○菅直人内閣総理大臣より下記のとおり挨拶。

- ・地震発生から4日目の朝を迎えた。この間、一人でも多くの皆さんの救出に向け、全力を挙げていただいた。今日もさらなる救出に向け、全力を挙げていただきたい。既に15,000人を超える救出と、支援活動が進んでいる。

- ・避難所等におられる皆さんに対する、食料・水・毛布等の支援を更に一層進めなければならない。多くの関係者が動いているが、更なる努力を加えていただきたい。同時に、救援活動の中でも、仮設住宅等のその後のことに対する手当等もしっかりと準備に入りたい。
- ・また、福島原子力発電所は憂慮すべき状況が継続している。これ以上の被害を及ぼさないように、関係者が昼夜を分かたず全力を挙げているところ。
- ・同時に、今朝から始まった計画停電は、本当に多くの国民の皆様にご迷惑をお掛けしている。約1/4電力供給が不足するという東電の見通しの中で、突然の大規模停電に陥らないための緊急避難的対応である。
- ・しかし、たいへん準備期間が短いために、計画停電であっても、予想を超えた国民生活への悪影響が出る可能性があり、今日未明まで、そうしたことが起きないように関係方面で全力を挙げてください。そうした努力も含め、この計画停電について国民の皆さんの理解を得ながら、当面は、不要不急のことでは外に出ないで、できるだけ電源を切ることによって、多少、社会活動が数日間低下しても、この計画停電の悪影響ができるだけ少なくなるよう協力をお願いしたい。
- ・世界は我が国に対し多くの支援を既にいただき、また申し出ていただいている。また、今の日本について、これだけ大きな地震でありながら国民の皆さんが冷静に行動されていることに対して、たいしたものだとの評価をいただいている。これから、本当に、我々の底力を試され、問われる時だ。なんとしても、この危機を乗り越えて、新たな日本社会を作っていく、そこにつながるために、今、この場にいる私たちは歴史的な使命を果たしていかなければならない。
- ・どうか、国民の皆様にも、日本人の底力を問われているという思いを一つにして頑張り抜いていただきたいし、私たちも頑張るということを申し上げて、冒頭の挨拶とさせていただきます。お互いがんばりましょう。

(菅直人内閣総理大臣の挨拶に続き、第9回緊急災害対策本部の議事が行われた。記載略。)

○枝野幸男内閣官房長官から、第9回緊急災害対策本部に続いて、第7回原子力災害対策本部の議事に入る旨案内。

○海江田万里経済産業大臣から原子力発電所の現状について報告。

- ・福島第一原子力発電所については、海水ピットの水量が減少したため、これを補給するために、本日1時10分に1号機及び3号機の原子炉への給水を一旦停止した。補給後、3時20分に3号機への給水を再開した。
- ・3号機の原子炉格納容器の圧力が上昇したため、東京電力は、本日6時50分に屋外作業員に対して一時避難命令をかけ、追加的なベントの可能性を検討した。しかし、その後格納容器圧力が下がり、ベント作業の必要がなくなったので、今は屋外作業を再開している。
- ・1号機については格納容器圧力が安定しており、今後、状況を見つつ、必要に応じて給水を再開する予定。
- ・福島第一原子力発電所敷地境界周辺の放射線量についても、上昇と下降が繰り返されており、引き続き注視していく。

○玄葉光一郎国家戦略担当大臣から「悪い情報も含めて情報を100%福島県知事と共有す

ることが大事。知事と話したが、現地の保安院の課長を通じて県に情報提供すべき。知事と大臣レベルで話をするべきではないか。次の段階に進むときも、知事と一緒に決めるべき。」との発言。

○海江田万里経済産業大臣から「今朝時点で、20km圏内の避難がほぼ終了した。」との発言。

○菅直人内閣総理大臣から「基本的には20km、10km圏から確実に避難いただければ、一番厳しい状況を想定しても大丈夫。20kmを超えて設定することは最悪の事態であって、20kmで十分というのが専門家の一致した見方。」との発言。

○玄葉光一郎国家戦略担当大臣から「違う専門家の意見もある。」との発言。

○枝野幸男内閣官房長官から「情報発信について正確かつ迅速に。刻々と変わるので随時行う。評価・判断はあいまいにしないで決定の段階で公表。」との発言。

○枝野幸男内閣官房長官から閉会を宣言。

以上

※本議事概要は各種資料等を元に、2012年3月1日に整備。